

令和8年5月13日  
教育課程企画特別部会  
参考資料5

令和8年5月11日  
教育課程部会  
国語ワーキンググループ  
資料1 (p.22~45)

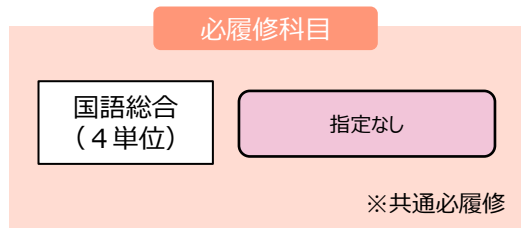
議題  
(2)

# 高等学校国語科の科目の在り方について

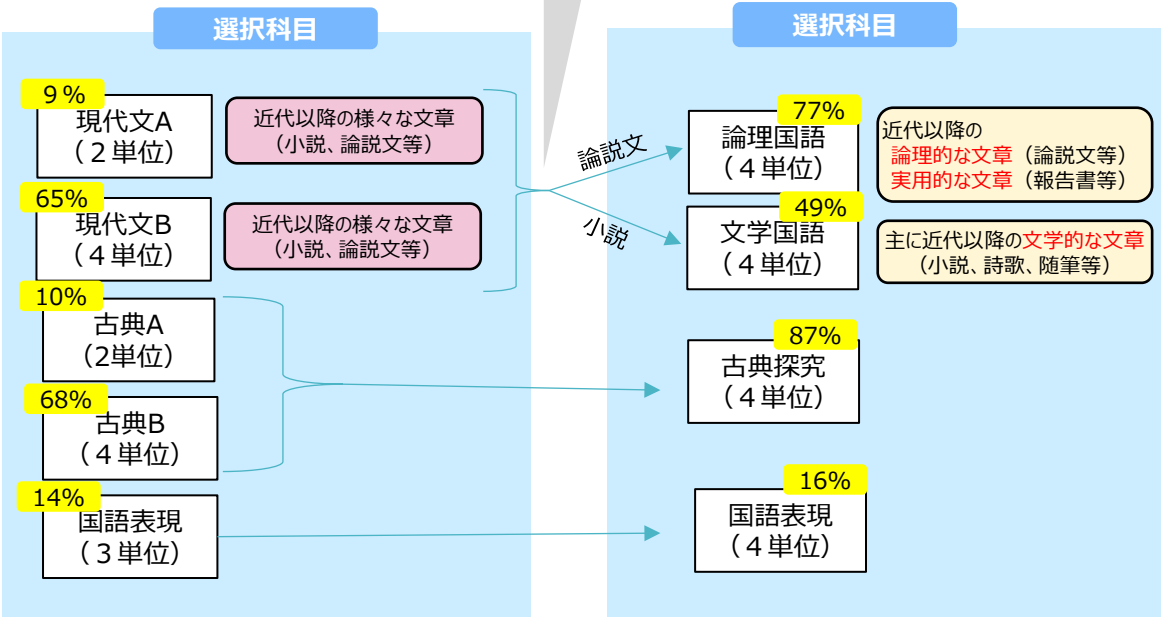
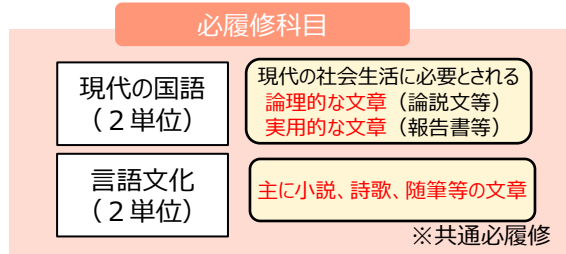
# 高等学校国語科の科目変遷・現行改訂時の考え方

## 近年の科目変遷の流れ

平成21年3月告示



平成30年3月告示



※「%」は、教科書の需要数を基に、文部科学省にて推計した履修率。(必修科目の需要数を履修率100%として算出。平成30年告示版は、必修2科目の需要数に差があるため、平均値として算出。)  
平成21年告示版は令和3年度、平成30年告示版は令和7年度の値を参照。

## 現行改訂時の考え方

以下の課題を踏まえ、H30改訂で科目構成を大幅に見直し

### 【指摘されていた課題】

- **教材の読み取りが指導の中心**になることが多く、主体的な表現等を重視した授業が十分に行われていない
- **話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていない**
- 古典の学習意欲が高まらない(日本人が大切にしてきた言語文化を積極的に享受し、社会や自分との関わりに活かしていく観点が弱い)

### <各科目の趣旨>

- **現代の国語 (必修)**  
実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目
- **言語文化 (必修)**  
上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目
- **論理国語 (選択履修)**  
実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目
- **文学国語 (選択履修)**  
深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視した科目
- **国語表現 (選択履修)**  
実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目
- **古典探究 (選択履修)**  
古典を主体的に読み深めることを通して、伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する資質・能力を重視した科目

# 高等学校国語科の現状と課題、見直しの方向性

## 1. 現状と課題

### (1) 履修の実態

- 前回改訂のねらいに基づく改善はある程度進捗
  - ✓ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導への教師の意識の変化
  - ✓ 教材に依存した指導、文学的文章の内容理解偏重の指導、古典文法に偏った指導の改善
- 一方、選択科目の単位数が多く（全て4単位）、時間割編成上の制約が大きい中、以下の実態も見受けられる。
  - ① 実社会におけるコミュニケーション能力の育成を図る「国語表現」が、大学入試に繋がらない等の理由で、進学希望者が多い高校で選択されにくい
  - ② 国公立理系では「論理国語」と「古典探究」のみの履修、私立理系では「論理国語」のみの履修にとどまる例が多く、バランスが悪い

科目	履修率
現代の国語	100%
言語文化	100%
論理国語	77%
文学国語	49%
国語表現	16%
古典探究	87%

教科書の需要数を元に、文部科学省で推計。（必修科目の「現代の国語」「言語文化」の需要数を履修率100%（差があるため平均をとる）として、他科目の履修率を推計）  
R7年度の値を参照

### (2) 顕在化している課題

- 前回改訂で問題となった課題の改善は継続する必要（引き続き重視すべき改善の視点）
  - ✓ 「読むこと」と「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のバランス、多様な教材のバランス
  - ✓ 言語文化を積極的に享受し、生かしていく視点
- 前回改訂以降、急速に発展・普及した生成AIがもたらす変化を念頭に置くと以下のような点が課題。
  - ① 人間同士のリアルなコミュニケーションの重要性が高まる中、自らの考えを言葉にし、論理的かつ説得的に表現・対話する力の育成が不十分
  - ② 人間ならではの感性をはぐくみ、それらを的確に表現することの重要性が高まる中、理系希望者を中心に、文学を題材とした学びが相対的に不足（文理融合の視点）
- 小中高共通の課題として、以下の点についても踏まえる必要
  - ① 読書離れが進む中、読書を通して出合った語句や表現、ものの見方や考え方を、自分の中に蓄え次の学びにつなげていく力の育成
  - ② 短文でのやりとりが中心となるSNSなどに日常的に接する一方でまとまった文章を読む機会が不足している中で、文章を的確に理解するとともに、自分の考えを深めたり、表現を工夫したりする力の育成
  - ③ 日々の情報収集もSNSが中心となり、報道を含む多面的・多角的な情報収集が行われなくなっていることを踏まえたメディアリテラシーの強化
  - ④ 小・中学校の学びが基盤となって高校の学びへとつながっていくことを明確にすることによる、中学校と高校の学びの段差の解消

### (参考) 第8回WGでの委員からの主なご意見等

- 選択科目が4単位と多く、履修できる科目に限界があることによって、「話すこと・聞くこと」の領域を学ばなかったり、文学作品を読まないといった学びの偏りが生じている状況を是正する必要がある。
- 履修率からも分かる通り、「国語表現」など表現系の科目が軽視されてしまっている状況を是正すべき。
- 自分の考えを言葉にして伝える力を重視すべき。
- 現行の科目は、各科目の趣旨が目標で明確に示されておらず、科目の特性が掴みにくい。科目の特性を目標でも示すべき。
- 古典を学ぶ意義が十分に理解されていない。また、「古典探究」は、教科書の内容も含め探究と言えるものになっていない実態がある。
- 「論理」とはこういったものを想定しているのか、明確にする必要がある。
- 読書離れが進んでいることも踏まえ、より多様な文章を読む機会を確保する方策について、国語科としてどう考えるか。
- 現行の必修科目「現代の国語」と「言語文化」の内容は、1年次で完結させるのではなく、2年次以降でも継続的に学んでいく必要がある。

## 2. 見直しの方向性（案）

- これからの社会においては、自らの考えを言葉にし、論理的かつ説得的に表現し対話する力や、豊かな感性・情緒により自らの思いや経験を効果的に表現する力、他者と協働して考えを深める力など、人間ならではの言語能力の育成の充実が必要。
- これらも踏まえ、現行の趣旨は維持しつつ、論理的思考力、感性・情緒の両面について、二項対立に陥らず、バランスよく統合的かつ効果的に育成する方向で検討する必要があるのではないか。
- このため、必修科目（「現代の国語」「言語文化」）は、科目構成を維持しつつ、更なる改善を図るとともに、以下の通り、選択科目の構成や単位数の見直しを行ってはどうか。
  - ① 選択科目（論理国語・文学国語・国語表現・古典探究）の中から、標準的な内容項目を抽出し、
    - ・主として論理的に考える力を育成し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を偏りなく学ぶ4単位科目（現代の国語Ⅱ）
    - ・主として感性や情緒を豊かに育み、古典と近代以降の文章を、我が国の言語文化として学ぶ4単位科目（言語文化Ⅱ）を大多数の生徒の履修を想定した選択科目として新設することで、領域の学びの偏りを解消し、多様な文章を読む機会を確保する。
  - ② その上で、上記「Ⅱ」科目の履修を前提に、より発展的に内容を焦点化して学ぶ選択科目群（論説と批評、対話と表現、文学と叙述、古典と文化）（2単位相当）を設定し、生徒の興味・関心に応じた選択を可能にする科目構成とする。
- 小・中学校における学びが基盤となり、高等学校への学びの接続が図られていることを明確にするため、必修科目について、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の資質・能力を「話や文章の機能（仮称）」で整理する。また選択科目についても、必修科目との系統性を踏まえ、各科目の学びを明確にするため同様に整理する。
- ※ なお、論理的思考力の育成を重視する科目（現代の国語Ⅰ・Ⅱ、論説と批評）で扱う教材は、論説文や批評文などを中心とすることを明確にしつつ、文学作品等は科目の趣旨（論理的に思考・表現する等）に合致する取り扱いとなっているかどうかで判断する方向で今後詳細を検討してはどうか（現行の「現代の国語」と「論理国語」における「読むこと」の教材は、論説文や説明文等に限定）。
- ※ また、論理的思考力の育成を重視する科目（現代の国語Ⅰ・Ⅱ、論説と批評）における実用文の取り扱いについては、報道文や広告などを中心に引き続き扱うこととしつつ、それらを俯瞰的に論じた論説文や批評文を活用することも含めて、引き続き検討してはどうか。
- ※ 今般の教育課程の柔軟化の仕組み（単位の倍加、増単・減単をきめ細かく可能とする等）の下での高等学校国語科の諸科目の取り扱いについては、多様性の包摂の観点も含め、引き続き検討する必要。

## 3. 具体的な改善イメージ ※補足イメージ1～4参照

### (1) 必履修科目

○現行の必履修科目の枠組みを維持しつつ、科目の目標に即し学習内容を明確化することで、指導の更なる充実を図ることとしてはどうか。

#### ①目標の見直し

- 「現代の国語」においては、実社会で必要なコミュニケーション能力や論理的な思考力を中心に育成すること、「言語文化」においては、豊かな情意や感性、我が国の言語文化を継承・発展させる態度を中心に育成することを目標で明確に示すことで、科目を分けている趣旨を、育成する資質・能力の違いとして明示し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導の充実、言語文化を継承する態度の育成等各科目での課題改善を引き続き図る。

#### ②各科目で育成する資質・能力の焦点化

- 「話や文章の機能（仮称）」（「現代の国語」では「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」、「言語文化」では「思いや経験の表出と想像」「伝統的な言語文化の継承と創造」）により、各領域の資質・能力を焦点化して整理することで、教材とする文章の種類と育成する資質・能力の関係を明確にし、各科目の趣旨に沿った学びを充実させる。

# 高等学校国語科の見直しの方向性（具体的な改善イメージ）

## 3. 具体的な改善イメージ（続き） ※補足イメージ1～3参照

### （2）選択科目

○現行の選択科目の内容のうち標準的な内容を組み合わせ、必履修科目の内容を更に発展させて学ぶ科目と、現行の選択科目の発展的な内容を焦点化して学ぶ科目を設置してはどうか。

#### <標準科目>

#### ①「現代の国語Ⅱ（仮称）」（4単位）標準

- ・現行の「論理国語」「国語表現」の標準的な内容を組み合わせ、「現代の国語」の内容を深化させて学ぶ科目として再整理する。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の資質・能力を「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」の「話や文章の機能（仮称）」に応じて働かせ、論理的に思考することや他者との対話を通し、主として、実社会で必要とされる国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する。

#### ②「言語文化Ⅱ（仮称）」（4単位）標準

- ・現行の「文学国語」「古典探究」の標準的な内容を組み合わせ、「言語文化」の内容を深化させて学ぶ科目として再整理する。「書くこと」「読むこと」の2領域の資質・能力を「思いや経験の表出と想像」「伝統的な言語文化の継承と創造」の「話や文章の機能（仮称）」に応じて働かせ、想像したり感じたりすること、作品を通じて先人と対話することなどを通し、主として、感性や情緒を育み言語文化を継承する態度を養う。

※「話や文章の機能（仮称）」については、第7回WGで提示した案の文言を使用しており、詳細については引き続き検討。

#### <発展科目>

#### ③「論説と批評（仮称）」（2単位）発展

- ・現行の「論理国語」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。主として、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、批判的に読んだり自らの考えを論述したりするなど、論理的に思考し表現する資質・能力を育成する。

#### ④「対話と表現（仮称）」（2単位）発展

- ・現行の「国語表現」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を発展させた内容を学ぶ科目。主として、多様な他者との関わりの中で文章・口頭の双方において論理的・説得的に対話や表現をしたり、複数の媒体を通して他者との対話を重ね新たな価値を創出したりするなど、多様な他者と多角的なコミュニケーションを図る資質・能力を高める。

#### ⑤「文学と叙述（仮称）」（2単位）発展

- ・現行の「文学国語」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。主として、文学作品について評価したり、その解釈の多様性について考察したり、独創的な表現を工夫したりするなど、幅広い知識や教養を身に付け、感性や情緒を豊かにする。

#### ⑥「古典と文化（仮称）」（2単位）発展

- ・現行の「古典探究」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」の「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。主として古典を主体的に読み進めたり、我が国の伝統と文化の基盤として古典を学び現代的な価値について考えたりするなど、我が国の伝統的な言語文化を継承し、自分なりに価値付ける資質・能力を育成する。

#### <発展科目>の科目名称（案）の考え方について

- 「論説と批評」…主に論説文を批判的に読んだり、それらを批評したり論述したりする等の学習内容を端的に表す名称
  - 「対話と表現」…対話によって考えを形成したり、自分の考えを工夫して表現したりすること等の学習内容を端的に表す名称
  - 「文学と叙述」…主に文学作品を読んで解釈の多様性について考察したり、自分の体験や想像を叙述したりする等の学習内容を端的に表す名称
  - 「古典と文化」…主に古典作品を読むことを通して、解釈を深めたり我が国の文化の継承と創造について考えたりする等の学習内容を端的に表す名称
- ※ <標準科目>については、現行の枠組みを維持して充実を図ることとした必履修科目（改訂案）との系統性を重視しその内容の深化を表すため、必履修科目の名称に「Ⅱ」を付した名称としている。

## 3. 具体的な改善イメージ（続き） ※補足イメージ1～4参照

### （3）教材の扱い

- 多様な他者との協働が重要となる社会を念頭に置き、豊かな論理的思考力を育成するためには、多様な教材を活用して論理的に読み解き、根拠をもって説明・批評する学習を一層充実させる必要。
  - その際、論理的思考力、感性・情緒の両面についてバランスよく統合的かつ効果的に育成するため、例えば、文学作品を読むことを通して生まれる感情や想像を他者に伝わるように言語化したり、充実した言語生活に繋げたりすることも重要。
  - このような観点も踏まえつつ、論理的思考力の育成を重視する科目（現代の国語Ⅰ・Ⅱ、論説と批評）で扱う教材は、論説文や批評文などを中心としつつ、文学作品等は科目の趣旨（論理的に表現する等）に合致するかどうかで判断することとしてはどうか。（感性や情緒の育成を重視する科目も同様に整理）
- ※なお、実用文については、「話や文章の機能（仮称）」に即して指導に適切な文章と判断されるものを中心に扱うことを明記する方向で検討。

# 科目構成の見直しイメージ（全体像）

補足イメージ1

【現行】

【見直し案】

主に論理的思考力や  
コミュニケーション能力の育成

主に感性・情緒や古典の意義  
や価値を考える力の育成

**現代の国語(2単位)** 必修

読むこと      書くこと

話すこと・聞くこと

**論理国語(4単位)** 履修77%

読むこと      書くこと

**国語表現(4単位)** 履修16%

話すこと・聞くこと      書くこと

**言語文化(2単位)** 必修

読むこと      書くこと

**文学国語(4単位)** 履修49%

読むこと      書くこと

**古典探究(4単位)** 履修87%

読むこと

**現代の国語 I (仮称) (2単位)** 必修

(現代の国語) 読むこと      (現代の国語) 書くこと

(現代の国語) 話すこと・聞くこと

**現代の国語 II (仮称) (4単位)** 選択・標準

(論理国語(標準)) 読むこと      (論理国語(標準)) 書くこと      (国語表現(標準)) 話すこと・聞くこと

**論説と批評 (仮称) (2単位)** 選択・発展

(論理国語(発展)) 読むこと      (論理国語(発展)) 書くこと

**対話と表現 (仮称) (2単位)** 選択・発展

(国語表現(発展)) 話すこと・聞くこと      (国語表現(発展)) 書くこと

**言語文化 I (仮称) (2単位)** 必修

(言語文化) 読むこと      (言語文化) 書くこと

**言語文化 II (仮称) (4単位)** 選択・標準

(文学国語(標準)) 読むこと      (文学国語(標準)) 書くこと      (古典探究(標準)) 読むこと

**文学と叙述 (仮称) (2単位)** 選択・発展

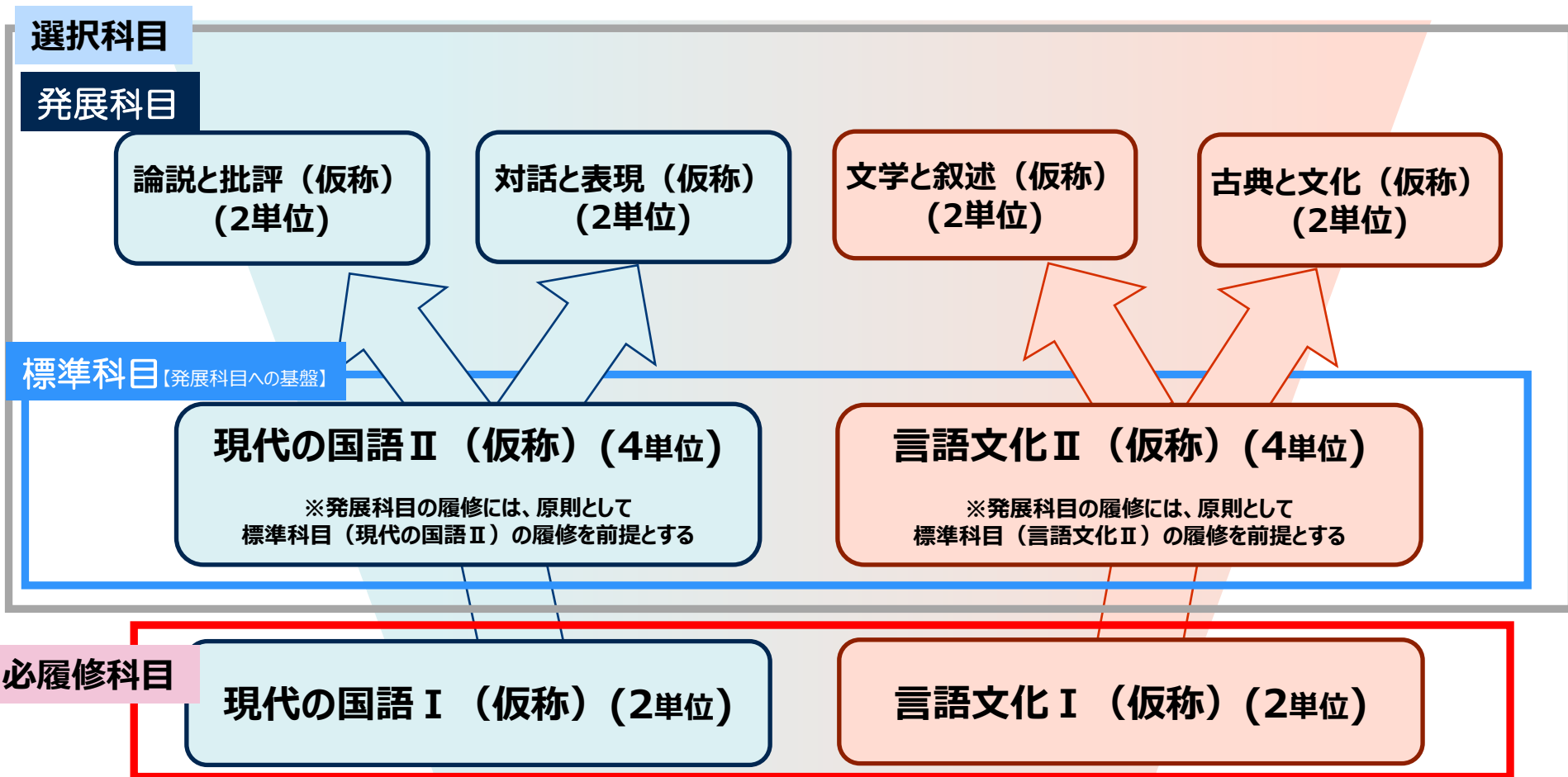
(文学国語(発展)) 読むこと      (文学国語(発展)) 書くこと

**古典と文化 (仮称) (2単位)** 選択・発展

(古典探究(発展)) 読むこと

「主に論理的思考力やコミュニケーション能力の育成」は、論理的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力の育成、「主に感性・情緒や古典の意義や価値を考える力の育成」は、深く共感したり豊かに想像したりする力、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を中心とした科目群

※ 現行の「%」は教科書の需要数を基に推計した履修率



小中学校での国語科の学び

※履修に関する基本的考え方について、以下のように考えることとしてはどうか。

- 選択科目は原則として必修科目の2科目を履修した後に履修させる。ただし、必修科目を2年以上の連続する年次にわたって分割履修する場合は、2年次目において、選択科目を同時に履修することも可能とする。
- 選択科目の発展科目は、標準科目において育成される資質・能力を基盤として特定の領域をより発展的に扱うものであり、原則として発展科目は同系統の標準科目を履修した後に履修させることとする。（例：「対話と表現」または「論説と批評」の履修は、「現代の国語 II」の履修が前提となる。）

※教育課程の柔軟化に関する基本的考え方について、以下のように考えることとしてはどうか。

- 必修科目、選択科目について、また、選択科目の標準科目及び発展科目については、生徒の実態に応じて柔軟に組み換えることができる。その場合においても、組み換え後の科目の内容については、当該科目において育成することとされている資質・能力及び内容の系統性が確保され、学習が段階的に深化するよう編成すること。

科目	現行科目との関係	単位数	科目目標の主要要素（イメージ）
現代の国語Ⅰ（仮称）	現代の国語	2単位	・実社会に必要な国語の知識・技能の育成 ・主として、論理的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力の育成
言語文化Ⅰ（仮称）	言語文化	2単位	・言語文化にかかわる国語の知識・技能の育成と、我が国の言語文化への理解の深化 ・主として、深く共感したり豊かに想像したりする力、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力の育成
現代の国語Ⅱ（仮称）	論理国語（標準）＋ 国語表現（標準）	4単位	・実社会に必要な国語の知識・技能の育成 ・主として、論理的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力の育成
言語文化Ⅱ（仮称）	文学国語（標準）＋ 古典探究（標準）	4単位	・言語文化にかかわる国語の知識・技能の育成と、我が国の言語文化への理解の深化 ・主として、深く共感したり豊かに想像したりする力、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力の育成
論説と批評（仮称）	論理国語（発展）	2単位	・実社会に必要な国語の知識・技能の育成 ・主として、論理的に考える力の育成
対話と表現（仮称）	国語表現（発展）	2単位	・実社会に必要な国語の知識・技能の育成 ・主として、他者との関わりの中で伝え合う力の育成
文学と叙述（仮称）	文学国語（発展）	2単位	・言語文化にかかわる国語の知識・技能の育成と、我が国の言語文化への理解の深化 ・主として、深く共感したり豊かに想像したりする力の育成
古典と文化（仮称）	古典探究（発展）	2単位	・言語文化にかかわる国語の知識・技能の育成と、我が国の言語文化への理解の深化 ・主として、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力の育成

   : 必修科目   
    : 選択科目（標準）   
 （枠なし） : 選択科目（発展）

※（標準）：当該科目の標準的な内容     
 （発展）：当該科目の発展的な内容

		現代の国語 I	言語文化 I
<b>目標</b>		<p>国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>実社会に必要な</b>国語の知識や技能を身につけ、適切に使えるようにする。</li> <li>・国語で<b>論理的に考える力</b>を伸ばし、<b>実社会における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力</b>を高める。</li> <li>・①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。</li> </ul>	<p>我が国の言語文化に関わる国語の知識や技能を身につけ適切に使うとともに、<b>我が国の言語文化を深く理解</b>できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語で<b>深く共感したり豊かに想像したりする力</b>を伸ばし、<b>先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力</b>を育成する。</li> <li>・①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。</li> </ul>
<b>話すこと・聞くこと</b>			
話や文章の機能 (仮称)	事実や知識の整理と理解	・実社会の中から題材を決め、相手の理解が得られるよう表現を工夫して話す。(話すこと)	
	考えや主張の理由付けと吟味	・論理の展開を予想しながら聞き、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。(聞くこと)	
	協働による深化や合意	・相手の反応を予想して、論理の展開や表現の仕方を工夫して話す。(話すこと)	
<b>書くこと</b>			
話や文章の機能 (仮称)	事実や知識の整理と理解	・論理の展開や情報の分量などを考えて、読み手の理解が得られる文章を書く。	
	考えや主張の理由付けと吟味	・根拠の示し方や説明の仕方を工夫し、自分の意見を述べる文章を書く。	
	思いや経験の表出と想像	・文章の構成や展開を工夫して、自分の体験を効果的に伝える文章を書く。	
<b>読むこと</b>			
話や文章の機能 (仮称)	事実や知識の整理と理解	・説明や解説をする文章を読み、叙述をもとに要旨を把握する。	
	考えや主張の理由付けと吟味	・主張が述べられた文章を読み、文章の構成や論理の展開について評価する。	
	思いや経験の表出と想像		
	伝統的な言語文化の継承と創造		

※表中の「目標」及び「話や文章の機能（仮称）」の内容の文言については、**現行の必修科目の指導事項をもとに想定している現時点でのイメージ**であり、詳細は別途検討。

※表中の「話や文章の機能（仮称）」については、**第7回WGで提示した案の文言を使用しており**、詳細については引き続き検討。

# 參考資料

# 高等学校国語科における教科目標の変遷

## 昭和35年改訂(告示) 目標

- 1 生活に必要な国語の能力を高め、言語文化に対する理解を深め、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにして、言語生活の向上を図る。
- 2 経験を広め、知識を求め、教養を高めるために、また、思想や感情を人に伝えるために、目的や場に応じて正しく的確に理解し表現する態度や技能を養う。
- 3 ことばのはたらきを理解させ、国語に関する知識を高め、国語に関する関心や自覚を深めて、国語を尊重し、その発展に寄与する態度や習慣を身につけさせる。

## 昭和45年改訂(告示) 目標

生活に必要な国語の能力を高め、国語を尊重する態度を育てる。

このため、

- 1 国語によつて的確に理解し表現する能力と態度を養う。
- 2 国語による理解と表現を通して、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにする。
- 3 国語による伝達を効果的にして社会生活を高める能力を伸ばし態度を養う。
- 4 言語文化を享受し創造するための基礎的な能力を伸ばし態度を養う。
- 5 国語に対する認識を深め、言語感覚を豊かにし、国語を愛護してその向上を図る態度を養う。

## 昭和53年改訂(告示) 目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身につけさせるとともに、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 平成元年改訂(告示) 目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身に付けさせるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 平成11年改訂(告示) 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 平成21年改訂(告示) 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 平成30年改訂(告示) 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

# 高等学校国語科における科目構成等の変遷

学習指導要領	領域構成	科目（◎：必履修、○：選択必履修）	
昭和35年改訂（告示）	A（聞くこと、話すこと）、（読むこと）、（書くこと） B ことばに関する事項	◎現代国語 ○古典乙Ⅰ	○古典甲 古典乙Ⅱ
昭和45年改訂（告示）	A 聞くこと、話すこと B 読むこと C 書くこと ことばに関する事項	◎現代国語 古典Ⅰ乙	◎古典Ⅰ甲 古典Ⅱ
昭和53年改訂（告示）	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語表現 古典	国語Ⅱ 現代文
平成元年改訂（告示）	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語表現 現代語 古典Ⅱ	国語Ⅱ 現代文 古典Ⅰ 古典講読
平成11年改訂（告示）	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔言語事項〕	○国語表現Ⅰ ○国語総合 古典	国語表現Ⅱ 現代文 古典講読
平成21年改訂（告示）	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎国語総合 現代文A 古典A	国語表現 現代文B 古典B
平成30年改訂（告示）	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎現代の国語 論理国語 国語表現	◎言語文化 文学国語 古典探究

# 現行の高等学校国語科の科目履修状況（推計）

科目	履修率
現代の国語	100%
言語文化	100%
論理国語	77%
文学国語	49%
国語表現	16%
古典探究	87%

教科書の需要数を元に、文部科学省で推計（必履修科目の「現代の国語」「言語文化」の需要数を履修率100%（差があるため平均をとる）として、他科目の履修率を推計）R7年度の値を参照

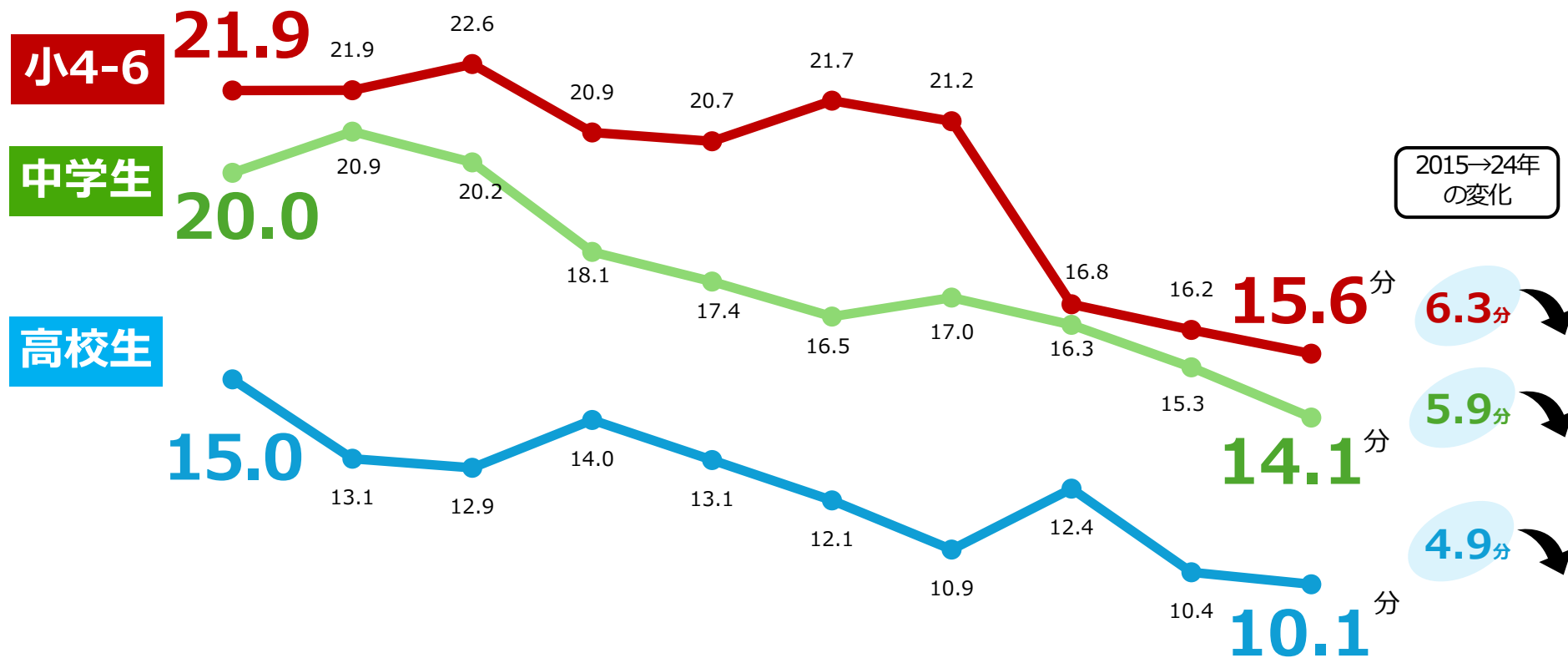
## 令和7年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果

		普通科等				専門学科				総合学科
		1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
国語	現代の国語	95.2%	1.2%	0.9%	11.7%	83.7%	16.3%	3.6%	5.2%	100.0%
	言語文化	94.9%	3.0%	1.8%	12.0%	80.1%	21.2%	2.9%	5.2%	100.0%
	論理国語	0.0%	81.4%	85.0%	11.1%	0.0%	42.7%	48.9%	2.9%	83.6%
	文学国語	0.0%	53.8%	56.8%	8.1%	0.0%	30.6%	35.5%	2.0%	69.0%
	国語表現	0.0%	9.0%	23.7%	4.2%	0.3%	9.4%	26.1%	1.0%	49.1%
	古典探究	0.3%	79.3%	77.5%	9.6%	0.0%	22.8%	25.1%	2.0%	69.6%

# 現行の高等学校国語科 科目の目標

	科目名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
必履修科目	現代の国語	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	言語文化	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
選択科目	論理国語	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	文学国語	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	国語表現	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	古典探究	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

# いずれの学校段階でも読書時間は減少傾向

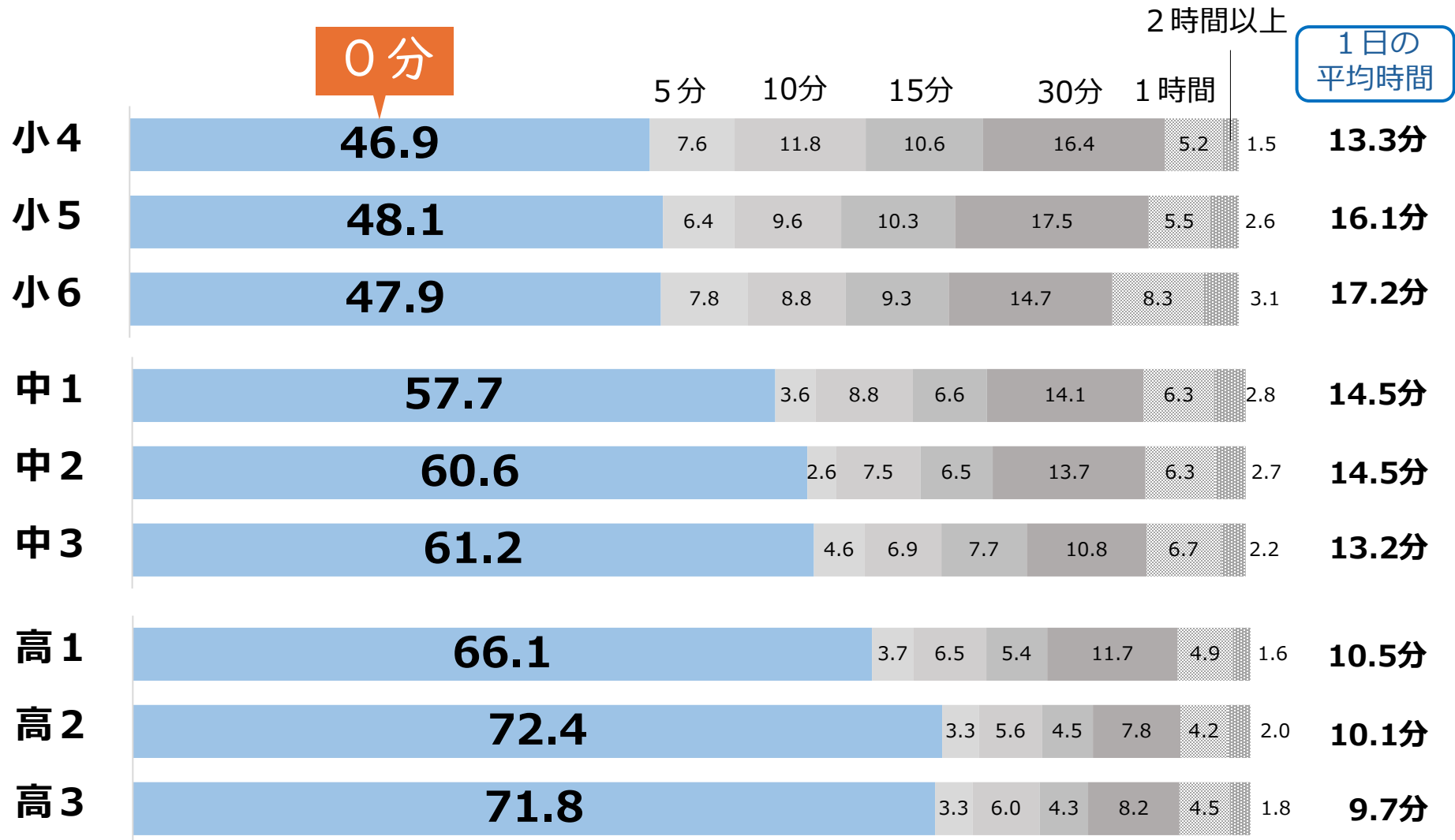


(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2024」

\* 「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。2023年以降は「本を読む(電子書籍を含む)」。

\* 「しない」は0分、「5分」から「4時間」はそれぞれ、5分から240分、「4時間以上」は300分を割り当てて平均値を算出した。

# 1日の読書時間が0分、半数以上



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2024」

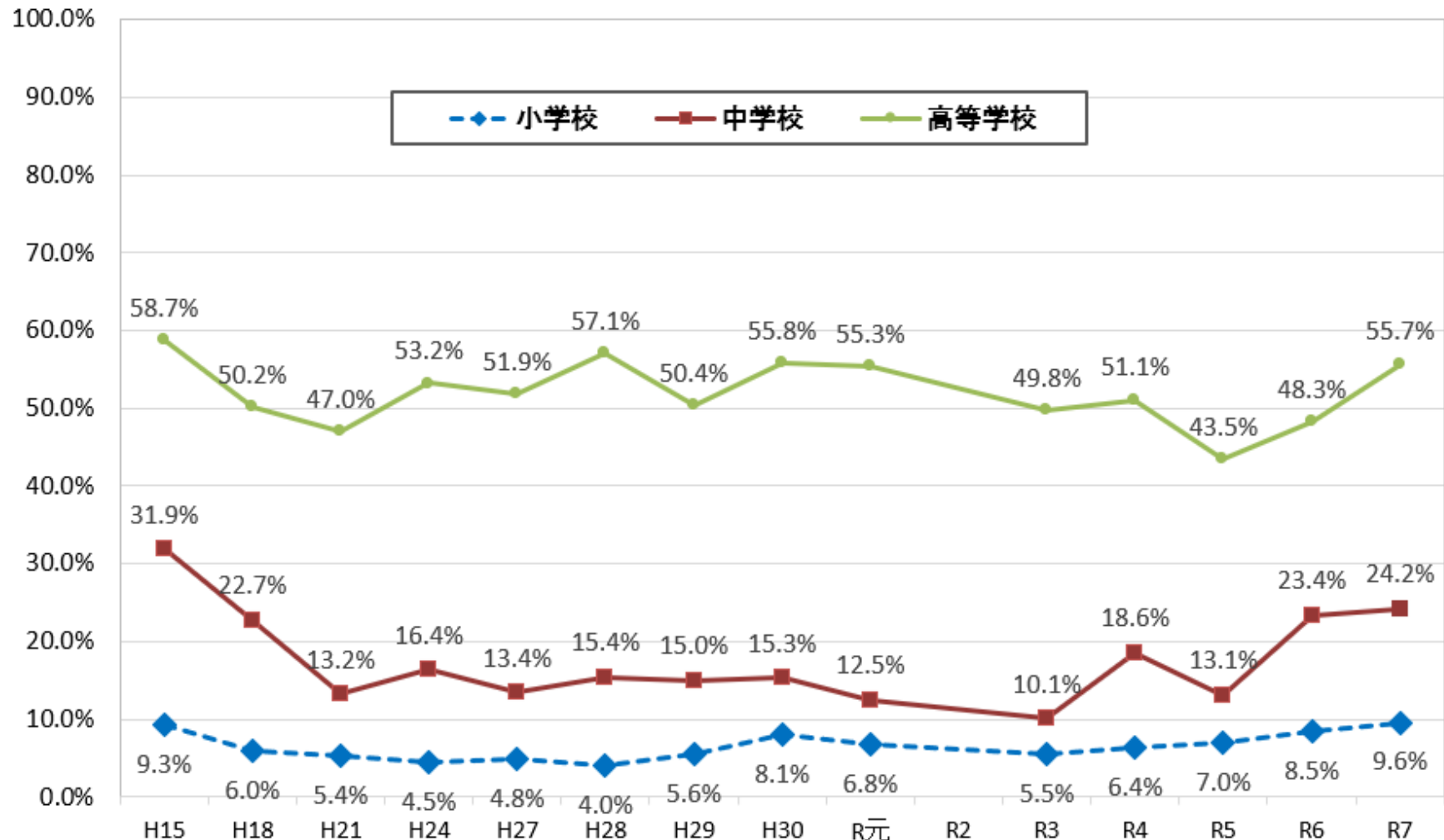
\* 「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。

\* 「2時間以上」は、「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。\* 平均時間は「しない」を0分として算出。

# いずれの学校段階でも不読率が上昇傾向

## 不読率（0冊回答者）の推移

※「不読率」：1か月に1冊も本を読まなかった者の割合



出典：学校読書調査（公益社団法人全国学校図書館協議会・株式会社毎日新聞社）

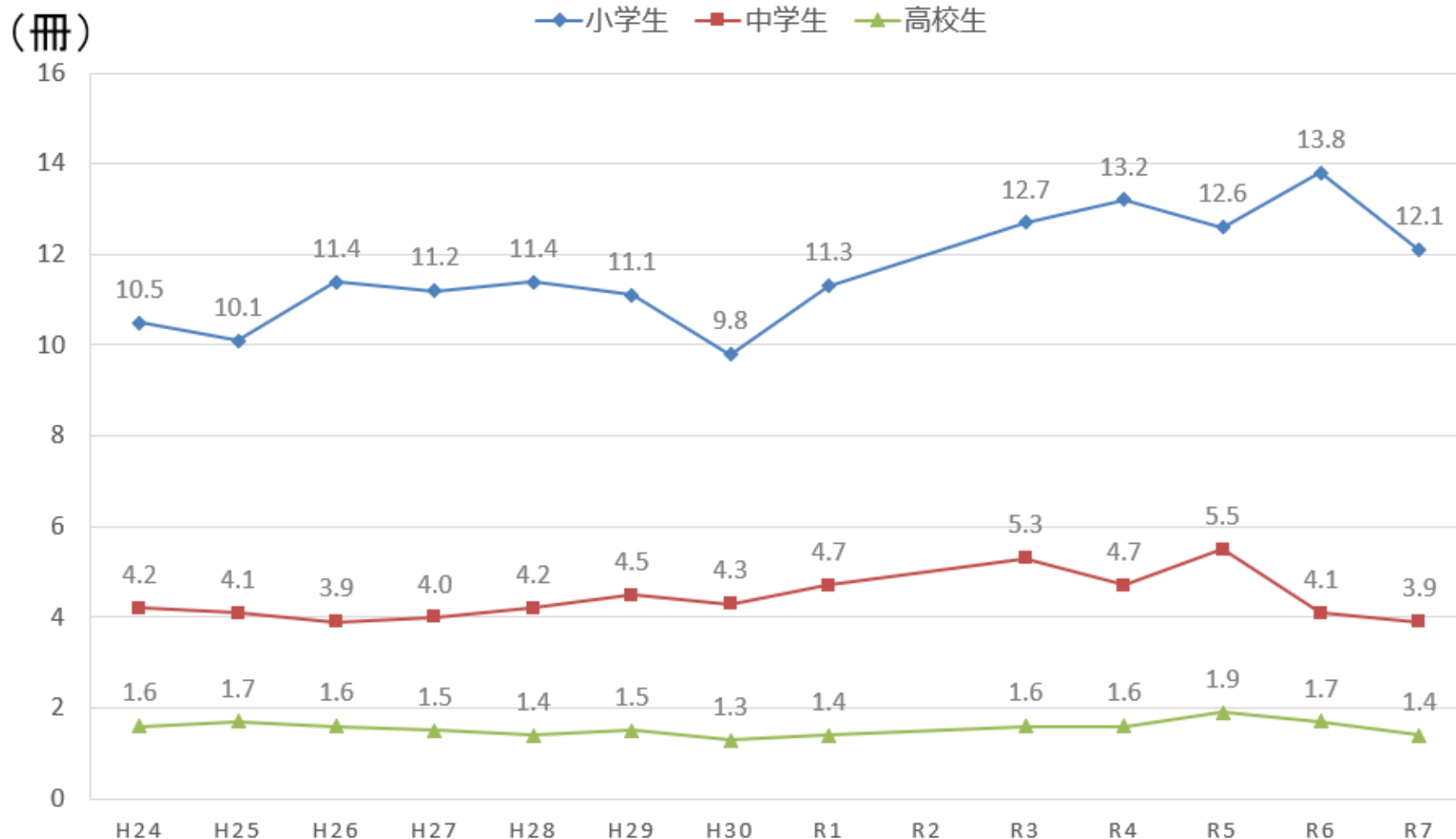
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調査未実施

# 子供の読書習慣に格差が生じている可能性

※直近の12年間で、1人当たりの読書冊数（冊／月）は、ほぼ横ばい。

一方、不読率は上昇していることから、子供の読書習慣に格差が生じている可能性が考えられる。

## 1人当たり読書冊数（冊／月）



出典：学校読書調査（公益社団法人全国学校図書館協議会・株式会社毎日新聞社）

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調査未実施

# 「自分の考え」を書くことが苦手

<R3~R5 全国学力・学習状況調査>

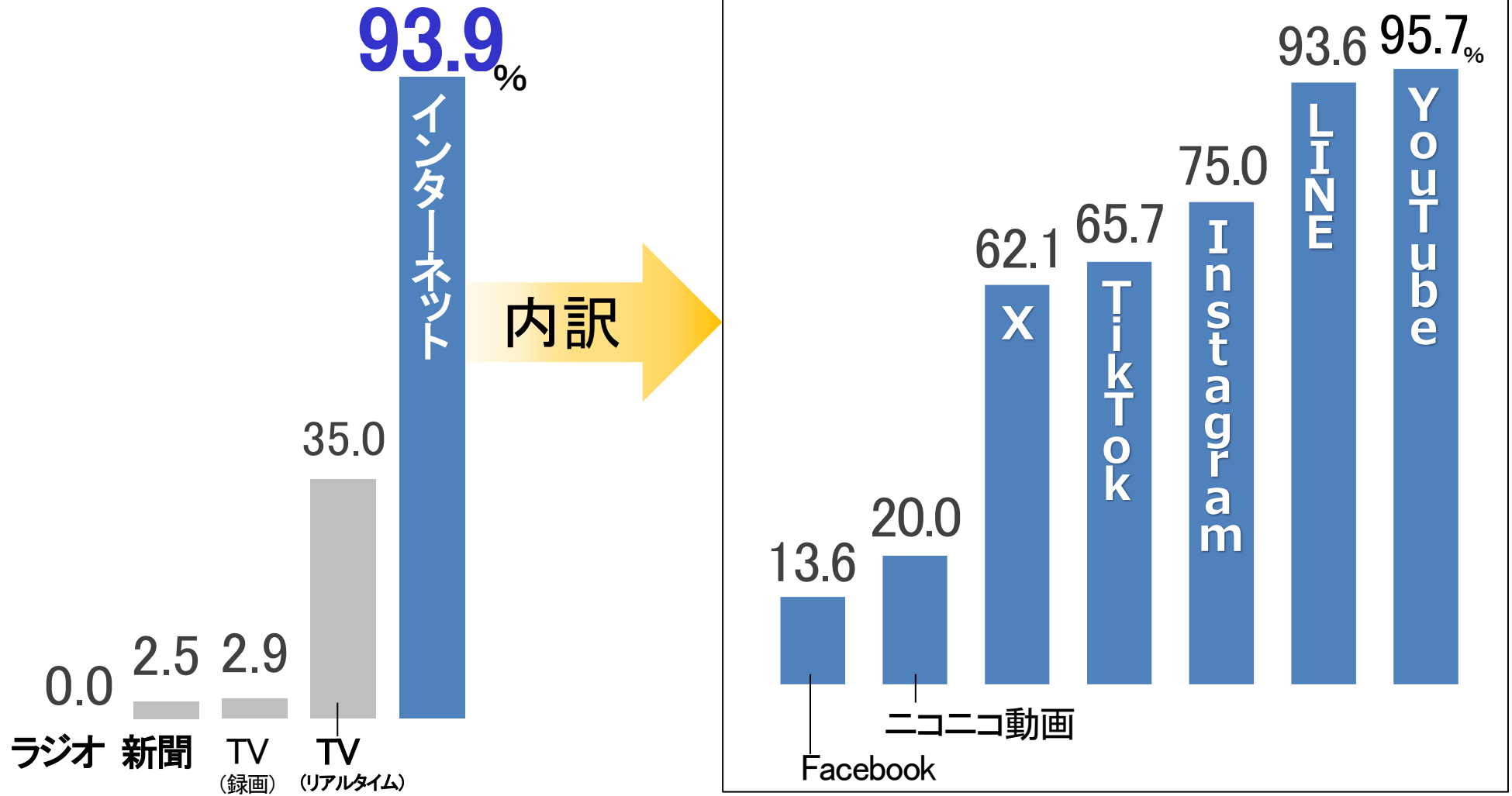
## 小学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く（R4）	互いの立場や意図を明確にしなが 計画的に話し合い、 <b>自分の考え</b> をまとめる	47.8%	3.0%
【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く（R5）	図表やグラフなどを用いて、 <b>自分の考え</b> が伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	26.8%	7.0%
資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く（R5）	文章を読んで理解したことに基 づいて、 <b>自分の考え</b> をまとめることができるかどうかをみる	56.4%	8.4%

## 中学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように <b>考えた理由</b> を書く（R3）	話し合いの話題や方向を捉えて、 <b>話す内容を考える</b>	57.5%	3.3%
農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える（R4）	<b>自分の考え</b> が伝わる文章になるように、 <b>根拠を明確にして書く</b>	46.5%	8.8%

# 10代のメディア利用状況

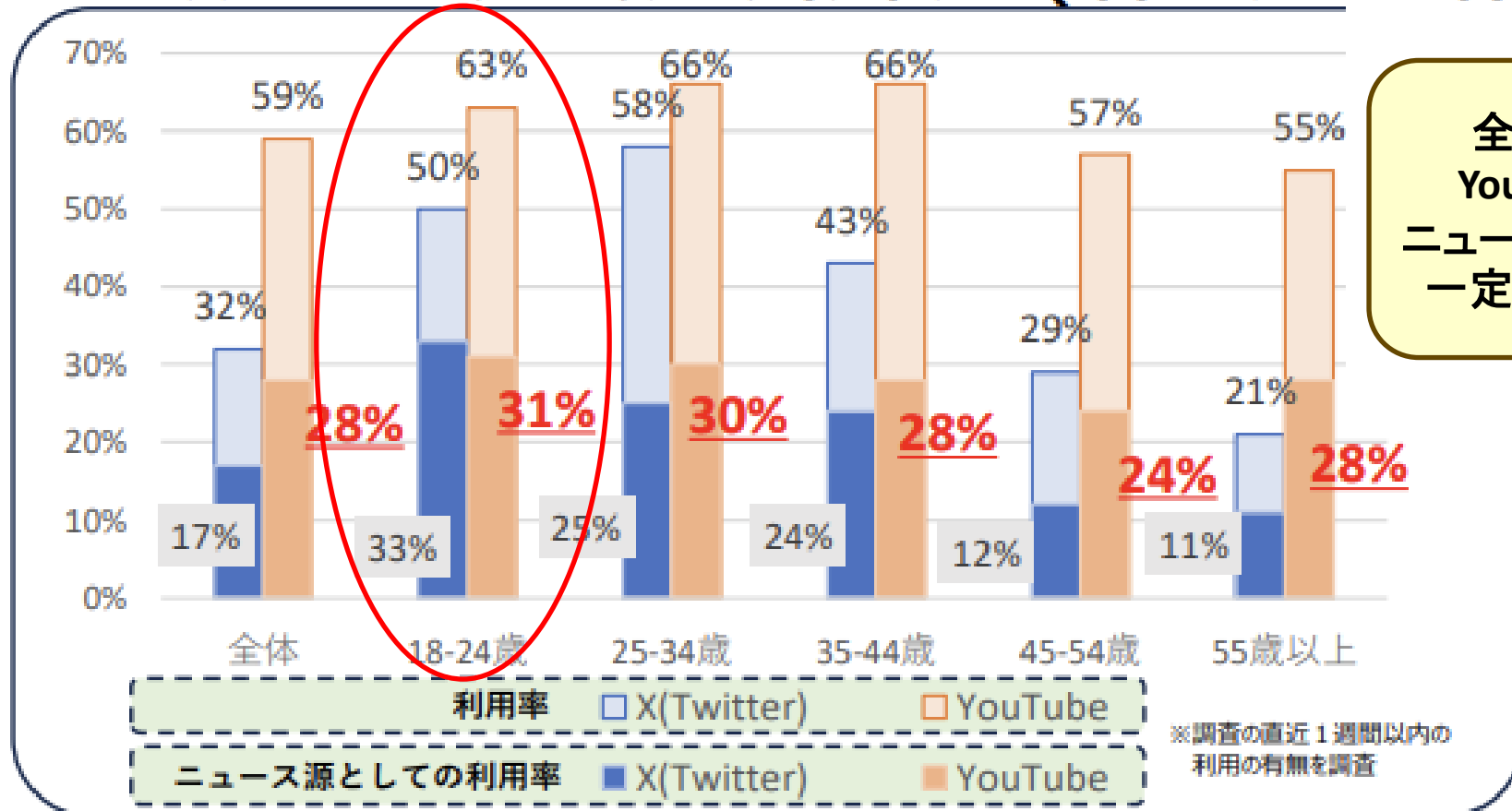


【出典】総務省情報通信政策研究所「令和6年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」図1-1-1-7、表5-1-1を基に作成。

\* 本調査は、全国の13～79歳の男女1,800人を対象に実施（令和6年12月2日（月）～8日（日））。本資料では、そのうち10代のデータのみを抜粋している。\* 左図は、図1-1-1-7を基に主なメディアの利用状況（平日）を示したもの（n=280）。\* 数値は、行為者率（調査日に利用した人の割合）である。\* 右図は、表5-1-1を基にインターネット利用の内訳のうち、主なソーシャルメディア系サービス及び動画投稿・共有サービスの利用状況を示したもの（n=140）。\* 報告書では、「X」は「X（旧Twitter）」と表記されている。\* 本資料は、上記調査結果を基に編集・加工して作成している。

# 18-24歳は、X(Twitter)、YouTube利用者の約半数が ニュース源として利用

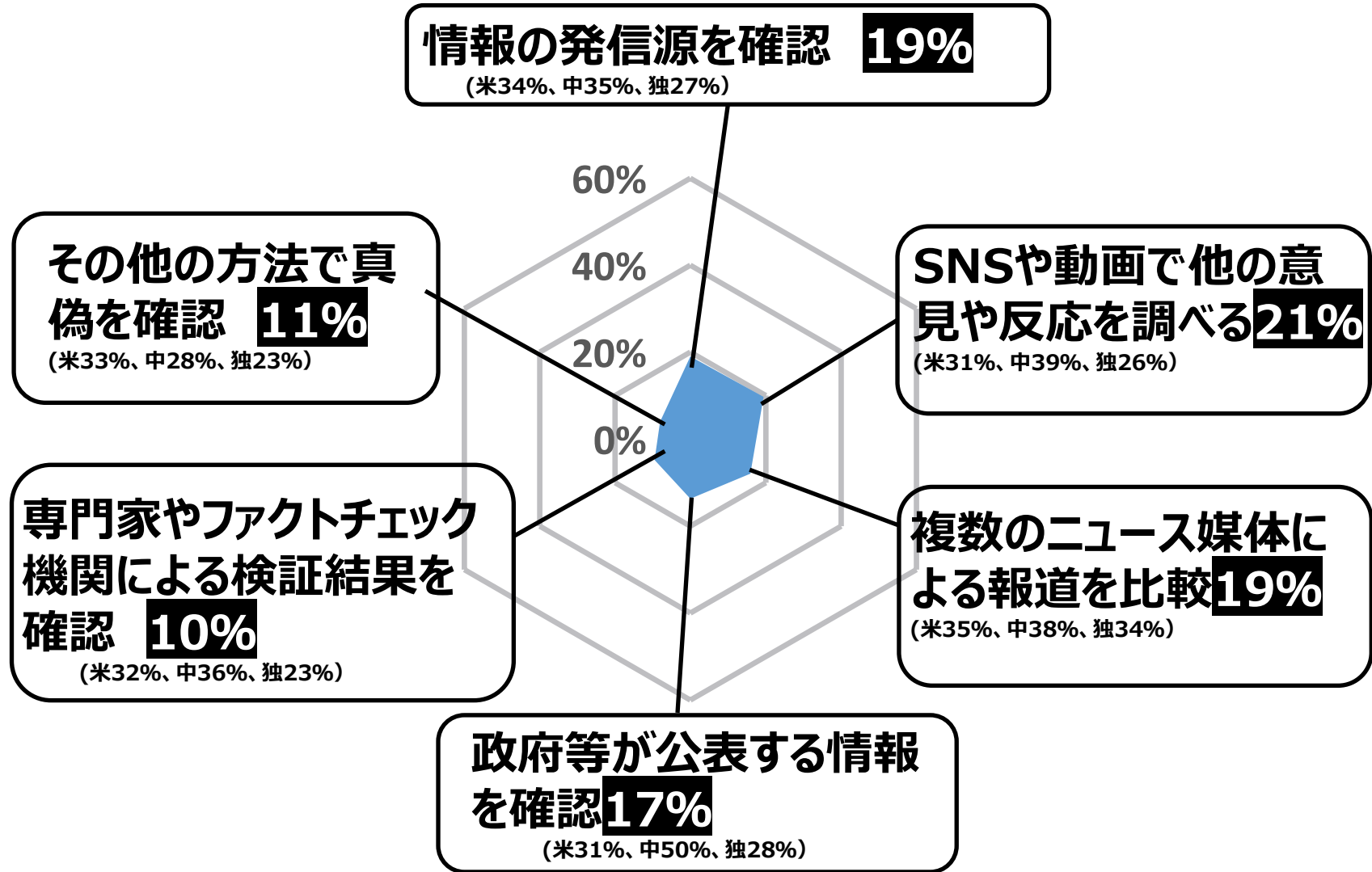
## ニュース源としてのソーシャルメディア利用率(年代別、2024年)



全世代で  
YouTubeが  
ニュース源として  
一定の存在感

(出典) Reuters Institute for the Study of Journalism「Digital News Report」(2024) を基に作成

# オンライン情報の信頼性を確認する割合 他国と比べ圧倒的に低い



【出典】

「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究の請負成果報告書」（2025（令和7）年3月 総務省情報流通行政局情報通信政策課情報通信経済室）

※アンケート対象：各対象国の居住者及び、20代から60代の男女を対象 日本N=1030 米国、中国、ドイツ N=520

※オンライン情報の信頼性の確認方法：「あなたはオンライン上で最新のニュースを知りたい時に、どのように情報の信頼性を確かめますか」の問いに「ほぼ全てのニュースについて行う」あるいは「よく行う」と回答した割合

# デジタルの負の側面も

## ① 子どもたちは常時ネット接続

● ネット利用時間の1日平均 (※1)



● 子供専用のスマホ保有率 (※2)

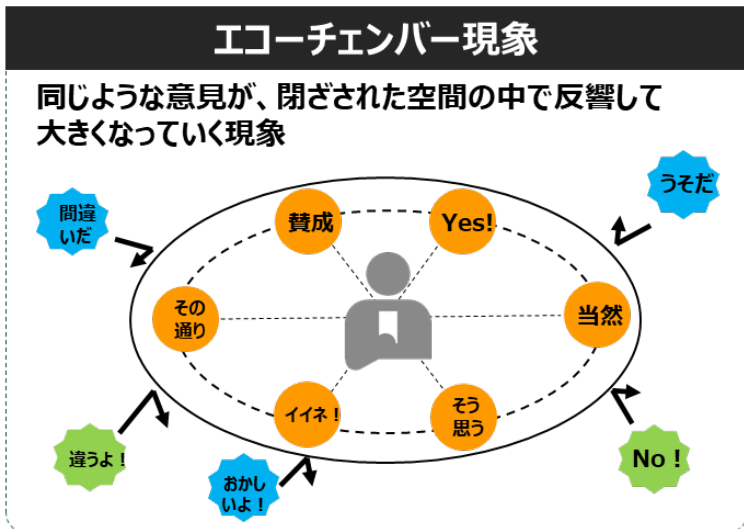
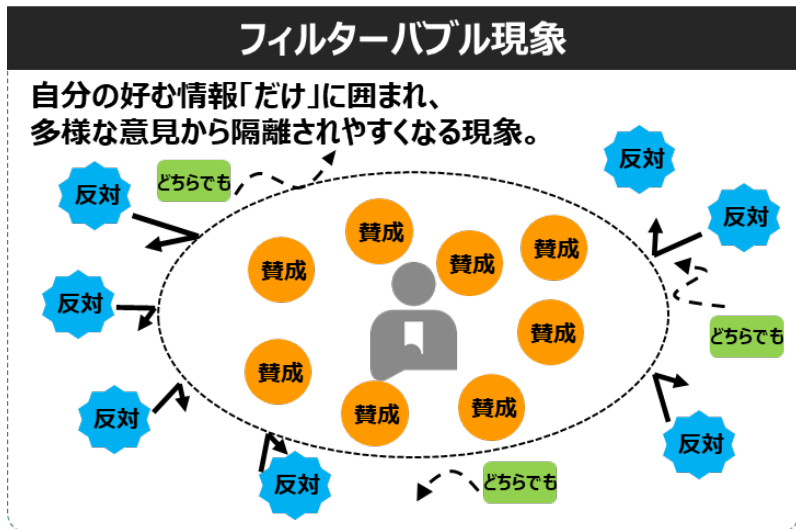


【出典】  
こども家庭庁 令和7年度 青少年のインターネット利用環境実態調査調査結果。  
(※1) ネットを利用すると回答した青少年の平均利用時間は、前年度と比べ約25分増加し、約5時間27分。目的ごとの平均利用時間は趣味・娯楽が最も多く、約3時間1分  
(※2) 「小学生」の調査対象は、10歳以上

## ② 多様な情報から遮断されるリスク

● 検索結果・SNS、表示情報のパーソナライズ

✓ 日本は「知っている」：44.8% 他国は60%～70% 【出典】情報通信白書令和7年度版



【出典】初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドラインVer.1.0